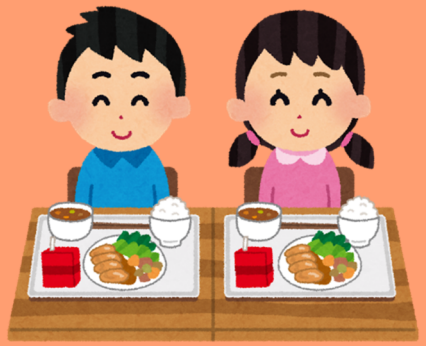
誇れる岡山市の学校給食!

給食室から校舎内に**料理の匂いが漂い、できたてのあたたかい給食**で食欲をそそることで、材料や生産者への関心を高めてきました。

栄養士さんや調理員さんがその給食を“つくる人”として子どもたちと**日々関わる**ことで、岡山市の教育としての**「食育」が充実**されてきました。



広島市の学校給食は自校調理方式とセンター調理方式で行われていますが、土砂災害の後、**自校調理方式の方が早く復旧**しました。弁当持参も検討された西日本豪雨災害時、自校調理場がある岡山市立平島小学校では学校給食が提供され、**被災地の保護者は本当に安堵**しました。

現在配送されている学校

- 岡輝中学校　(237人)
- 東山中学校　(346人)
- 操山中学校　(593人)
- 竜操中学校　(959人)
- 上南中学校　(152人)

配送に変更予定の学校

- 高島中学校　(501人)
- 富山中学校　(323人)
- 操南中学校　(770人)
- 旭東中学校　(811人)
- 西大寺中学校　(473人)
- 福浜中学校　(473人)
- 福南中学校　(443人)

大規模給食センターは必要ですか?

岡山市は、老朽化している岡山学校給食センター(中区赤田)の移転建替計画を進めています。

2025年1月の稼働を目指し、現在の5中学校・約2500食から、さらに7中学校を増やし、合計7000食を調理可能な巨大調理場を建設するものです。

奈良市では、第三者委員会を設置して４～５年かけて議論し、**自校調理方式を選択**しました。

しかし、岡山市は、自校調理方式や親子調理方式への転換は検討せず、子ども文教委員にも学校給食運営委員にも、“(大規模)センター調理方式ありき”で移転建替計画を進めています。

当事者である、子どもや保護者には、何ら説明も協議もありません。

岡山市の学校給食をみんなで良くする会

新たに7中学校約4000人の生徒に影響?

少子化だから集約?

市教委は、児童生徒数の減少で運営の効率性が落ちることから集約化が必要としています。

2020年6月には他自治体の7000食規模のセンターから食中毒が発生し3000人超が被害に遭いました。

少子化だからこそ、リスクを最小限に抑え、細やかな対応ができる自校調理方式を拡充させるべきです。

人員確保が困難だから集約?

市教委は、各調理場に1名以上を配置する学校栄養職員(栄養教諭)が確保できていないことから、調理場を集約する必要があるとしています。

しかし、正規学校栄養職員の採用は20年間実施されていません。非正規雇用で配置する方針を改めるべきです。

自校調理場の拡充を!

“集約化”によるメリットは、コスト面や管理に係る労力など“オトナの事情”だけ?

想定される　メリット（青★）　と　デメリット（赤）

自校調理方式	センター調理方式
★子どもたちが育てた野菜が給食の食材になりやすい	★調理業務が一元化され、管理運営に係る労力が軽減される
★食材の作り手がわかる	給食を作る人が見えなくなる
★給食をつくる人、食べる人、お互いの顔が見える	トラブルが起った場合は、7000 人分の給食が一度に止まる
★匂いも含めた“五感”で食べることができる	「食育」の学校間格差が拡大する
★各学校への栄養職員配置によって、 ・細やかなアレルギー対応　・行き届いた「食育」の実践 ・学校行事にあわせた独自の献立　　が可能	7000 食に拡大した場合、栄養士配置校が削減され、地場産物の利用が難しくなる
★できたての温かい給食で食欲が湧く	アレルギー対応はほぼ不可能
各学校への栄養士配置等によって人件費はかさむ	PFI 方式の資金調達は、市の起債金利の 2 倍の銀行融資となり財政面でも負担増に？

市議会での「市民の声を反映してもらいたい」との意見に、教育長は「学校給食運営検討委員会でしっかり議論していきたい」と答弁しています。
令和元年第3回の同委員会では次のような意見が出されていました。

●闇雲な“集約化”より、**まず人員不足に対する取り組みを。**
●子どもの目の前で調理することが食育の大きな効果。それが**中学校でも続くことを願う。**
センター配送なら（食育の）代替を検討する必要がある。
●調理員が目に見える、昼前になるといい匂いがする、など**食育には情緒も大切。**
●集約化では、保護者や地域向けの試食会などがなくなり、**啓発活動の拠点機能が低下**する。
●集約化では各学校へは栄養士が未配置となるが、養護教諭らとの**連携は必要。**
●小と中の違いを言われるが、教育計画ではどちらもゴールに“生産者の思いを大切にする”と明記されており、**中学校としては忸怩**(じくじ)**たる思い。**
●集約化だと、**地産地消が薄れる。**
●(近隣の調理場がある学校から配送する)**親子方式の方がまし**ではないか。
●予算がかかろうが、**いいものは残して**欲しい。

しかし、令和2年度第1回の同委員会では、「ある程度の集約化については避けて通れない」ことが委員会の総意として“共有”されました。

次代を担う子どもたちに寄り沿った対応を!